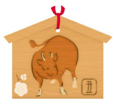
自衛隊山梨地本便り

【発行】
自衛隊山梨地方協力本部
募集課広報班
山梨県甲府市丸の内1-1-18
甲府合同庁舎
055-253-1591

山梨地本 Twitter

Instagram

謹賀新年



新年明けましておめでとうございます。皆様には平素より自衛隊山梨地方協力本部に対し多大なるご支援・ご協力をいただき、心より感謝を申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルスが社会全般に大きく影響を及ぼした1年でありました。日々の生活は、様々な制約を受け、多くの行事等が中止を余儀なくされました。

また、わが国周辺の安全保障環境についても厳しさを増しており、いついかなる時も備えを怠ることはできません。山梨地方協力本部もなすべきことが時機を失することなくなされるよう、今年も常に心がけて参ります。

さて、今年、国内においては、延期されていた東京オリンピック及びパラリンピックに向けての準備が改めて進められています。オリンピックについては、日本選手の活躍が大いに期待されています。自衛隊体育学校に所属する自衛官も既に代表選手として決定している隊員もおり今後代表が決定する隊員も含めると多くの選手が出場するものと期待されますが、山梨県出身あるいはゆかりのある隊員が何人もおり、大会での活躍に是非とも注目したいと思います。

一方、山梨県内に目を転じますと、山梨県は今年、県が誕生して150周年であるとともに、武田信玄公生誕500年という大きな節目を迎えます。先人の偉業と叡智を改めて学び、先々に向けてのビジョンを得るための資とするとともに新たな時代に向けて、創造力を発揮することのできる1年にしたいと思います。

そして、大きな節目が、新型コロナウイルスにとっても大きな区切りとなり、早く元の日常が取り戻されることが期待されます。そうした中で、皆様にお会いをする機会を持って、膝を交えて色々とお話をさせていただく場が多く持つことができるよう強く願うものであります。

最後になりましたが、今年も皆様からのご支援・ご協力を賜りますようお願いいたしますとともに、新たな年が、皆様にとりまして良き1年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきたく存じます。

自衛隊山梨地方協力本部長
1等陸佐　前野直樹

南南東の方角に
富士山を望む

職務紹介

自衛隊山梨地本便りでは、今まで自衛隊の職務について紹介してきましたが、今月号では陸上自衛隊を紹介します。陸上自衛隊は、予測困難な脅威にも即座に対応できるように平時から準備・訓練を行っています。人々の一番近くで平和と安全を守る陸上自衛隊について、山梨県在住の第1特科隊隊員の声により紹介します。

1　第1特科隊本部　第2科
2等陸尉　塩島　秀和
（甲府南高校卒）

私は第1特科隊本部の第2科という部署で、「砲迫情報幹部」という役職についています。主な業務は、部隊の情報管理に関する業務を遂行しています。また、災害時には、県の担当者と連携し、被害状況等の把握及び部隊を円滑に被災地へ展開させるための情報収集を実施します。

データ送受を行う塩島2尉

私が所属する第1特科隊は、直接、敵の部隊と相対する「普通科部隊」や「戦車部隊」等に、大砲の射撃をもって支援する役割を担っています。また、全国の陸上自衛隊で唯一、各種国家行事における「礼砲」という任務も与えられており、私も現在までに3回従事しています。

礼砲の他に印象に残った任務としては、災害派遣があります。最初は、入隊2年目の平成16年に発生した新潟中越地震に派遣されました。ニュースで見たような現場に自分がいるという体験は鮮烈なものであったとともに、被災地の惨状から、自然に「頑張らなければ」という意識が芽生えました。2度目は、平成27年9月の関東・東北豪雨です。幹部候補生学校を卒業した次の日に派遣命令が下され、まさに「着の身着のまま」参加した任務で、作業小隊長及び現地調整幹部として従事しました。幹部自衛官としての最初の任務であり任務に邁進したのを覚えています。

「自衛隊が活躍する」というのは、実際、喜ばしいことではありません。有事や災害等が起こらない事が理想であり、一般市民の前で自衛官が活動するといったことが無いことがベターなのです。

しかしながら、いざという時に、困っている人に寄り添い、全力で救いの手を差し伸べることが出来る、それを仕事できるという点が自衛隊の魅力であると思います。

「大変なこと」が起こった時に、真っ向からそれに立ち向かい、そのために訓練し、学んできた技術・力を精一杯発揮することができることが自衛隊の一番の魅力であると思います。

2　第1特科隊本部　第3科
1等陸尉　繁縄　佑

私が所属する第1特科隊は、山梨県唯一の陸上自衛隊であるとともに、日本一標高が高い駐屯地に所在する部隊でもあります。

日常の業務は、教育訓練計画の作成や災害派遣における連絡要員ですが、国家行事においては「礼砲」を実施します。私も令和元年の即位礼正殿の儀に参加しました。このような、一般社会では経験できない訓練を実施したり、訓練の企画を担当する際の責任の重さを考えるときにやりがいを感じます。

即位礼正殿の儀に従事する繁縄1尉（左から2番目）

令和元年には台風19号に伴う災害派遣に従事しましたが、過酷な環境においても愚直に任務を遂行できる強く逞しい肉体と精神を兼ね備えた隊員と一緒に国民のために働けることが自衛隊の魅力だと感じました。

自衛隊山梨地本便り

【発行】
自衛隊山梨地方協力本部
募集課広報班
山梨県甲府市丸の内1-1-18
甲府合同庁舎
055-253-1591

LINE@

企業主の声

弊社は明治38年に創業し、今年で115年を迎えました。初代が「(有)森田木工製作所」として家具の製造を始め、3代目にあたる私の父が今から55年前に住宅設備メーカーのタカラスタンダード(株)様との取引を開始し、それ以降は同社から100%の受注を頂き生産に従事しております。

事業内容と致しましては、首都圏向けのマンション用システムキッチン、並びに三面鏡の生産を行っており、首都圏、特に東京においては立ち並ぶマンションの約80%に弊社の作製した製品が納められております。

私自身は4代目として15年前に入社し、それまで「製造業」についていたマイナスイメージを払拭し、あらゆる世代に「かっこいい」と感じてもらえる製造業を目指しております。

私が社長に就任して、まず力を入れて取り組んだことは「雇用」です。1から教えて育てるよう、高校卒業予定者を積極的に採用し、「サンウッドイムズ」が浸透した社員を増やしてきました。その甲斐あって、この10年間で社員の平均年齢も31歳と若返り、アットホームで活気ある企業に成長しました。

しかしながら、他社同様に弊社でも離職率の高さが問題の一つとなっていた時期があり、その解決策を模索し続けておりました。

そんな中、自衛隊退職者の再雇用について話を伺う機会があり、採用を検討していくことになったのです。

私も含め、一般的に自衛隊員の方々のイメージは、真面目で正義感あり、力強く、逆境に強い。加えて、仕事面においては忍耐強く物事に取り組み、正確な作業が行えるといった感じではないかと思います。私は常々、社員に「自分で考えて自ら行動できる社員であれ」と申しておりますが、まさにその元となるイメージは自衛隊員を連想したものだったのかもしれません。

今の製造業に求められることは以前と違い、「多品種少ロット」の製品を、短時間でいかに数多く生産できるかだと感じています。また、お客様の目も年々厳しくなっており、細かな部分にも配慮が必要です。さらに、基本的には重労働であるため、それに耐えうる屈強さも求められます。

そのようなことから、採用について考える時、数々の厳しい訓練に耐え、様々な体験をされた自衛隊退職者の方ほど弊社の仕事にぴったりなのではないかと思うようになりました。

昨年、初めて援護課の担当者様を介して面接、採用を致しましたが、実はそれ以前にも弊社には自衛隊退職者が数名所属しておりました。その社員の事を考えても協調性があり、仕事に前向きに取り組み、コミュニケーション能力が高く、柔軟な発想力がある、またなんといっても時間を意識した行動ができる人材だと思っておりましたので、新たにご紹介をいただけたことは本当に幸運でした。

昨年入社の大迫さんは弊社の理念に共感し、工場見学を希望されたそうです。また、場内を見学し、「若くやる気にあふれた職場である」とその場で入社を強く希望していただきました。

会社前にて(大迫さん：元空自隊員)

大迫さんには今、資材管理の仕事をお願いしておりますが、入社早々から「こうしたらどうだろう?」「こうやってみたい」という積極的な意見をたくさんいただき、資材の保管や供給などに関しても担当者と話し合ってスムーズな生産が行えるよう尽力いただいております。

女性の経営者という事もあり、もっと女性も活躍できる職場にしていきたいとも考えております。年齢、性別に関係なく働き甲斐のある職場環境を目指してまいります。

勤務中の大迫さん

部隊研修実施中

山梨地本では、入隊前の不安を払拭するため、自衛官等採用試験に合格された方を対象に部隊研修を実施しています。11月20日(金)には、空自浜松基地を訪問し、県内の空自合格者9名が部隊を研修しました。

浜松基地では、最初にT－4中等練習機等を見学しました。参加者は、訓練や任務で実際に活躍する機体を間近にし、興味を惹かれるとともに、隊員の説明にも熱心に耳を傾けていました。他にも、ペトリオットの教育を行う高射教導群や教材製作等を行う教材整備隊を見学しましたが、教材用模型が制作される様子を興味深げに見学していました。

研修を終えた参加者は「山梨には空自の部隊がないので参加できて良かった」「空自についての理解が深まった」といった感想を述べていました。

山梨地本では、引き続き合格された方に対する部隊研修を計画していきます。ご案内させていただいた際は、是非ご参加ください。

教材整備隊の見学

高等工科学校説明会

11月14日(土)及び15日(日)陸上自衛隊高等工科学校(神奈川県横須賀市)において受験希望者に対する説明会が実施され、県内からは受験希望者及び保護者の方が2日間で合わせて10名参加されました。

参加者は、高等工科学校に到着後、学校長からの挨拶、概要説明を受けた後、続いて施設見学を実施しました。中でも、生徒が生活する居住区画を見学した際には「限られたスペースを活用している」「よく整頓されている」といった声が聞かれました。最後は、在校生徒による体験談と質疑応答を行い、日程を終了しました。

説明会を終えた受験希望者の中には、「入学後の生活がイメージできた」と感想を述べる方も見られました。

高等工科学校に関心をお持ちの方は、募集対象者の皆さんであれば、保護者の方又は学校の進路指導の先生を通じて、保護者の皆様又は学校関係者の皆様は直接地本本部または各募集事務所にお問い合わせください。

施設見学(居住区画)

募集課長YBSラジオに出演す!!

11月26日(木)に田中募集課長が、YBSラジオの「はみだししゃべくりラジオキックス」に出演しました。当日は、地本本部に事前に打合せに来ていただいたリポーターの三木礼菜さんと募集課長が、課長の職務経験や自衛官募集HPに掲載している適職診断についてトークを交えました。時折スタジオのパーソナリティーの方とも中継で言葉を交わしながら、無事出演を終えました。

今回のYBSラジオ出演による自衛隊のPRは、山梨同友地本協力会(会長　中村猛志氏)のご協力をいただき実施させていただきました。心より御礼申し上げます。

山梨地本では、今後も様々な機会を通じて自衛隊の魅力について情報発信していきます。

放送中

なお、番組をお聴きになられて、自衛隊に興味を持たれた方は、地本本部又は各募集事務所にお気軽にお問い合わせください。